



大杉谷国有林からの手紙



39通目 ~ニホンツキノワグマについて~

厳しい冬の時期が終わり、暖かい春の季節がやってきました。

4月19日には、大杉谷登山センターにおいて、大台町長や三重森林管理署、尾鷲森林事務所の職員など関係者約40名が出席し大杉峡谷オープニングセレモニーが開催され、山の神様に安全を祈願する神事が行われました。

また、4月11日から1泊2日の日程で、大杉谷登山道の点検・パトロールが行われ、三重森林管理署・三重県・大台町・環境省・警察・消防関係など総勢22名が、日出ヶ岳までの登山道で、転石・崩落土の除去、吊橋アンカーの清掃などを行いました。

今年度も大杉谷国有林に、多くの登山客が訪れてもらいたいと思います。

【 パトロール HP 参照 <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/work/20190425.html> 】



写真1 安全を祈願し神事が行われる

今回の大杉谷からの手紙では、登山シーズンの到来にともない今後動きが活発になるであろうニホンツキノワグマと樹木に対するクマ剥ぎについて、そして登山の際にニホンツキノワグマに出会わないようにする予防策についてご紹介したいと思います。

(1) 生態と個体数について

ニホンツキノワグマ *Ursus thibetanus japonicus* (以下ツキノワグマと略) は体長110~150cm、体重80~120kg もある国内最大級のほ乳類で、写真では見えませんが名前の由来になっている白い三日月型の模様が特徴のクマです。

ツキノワグマは雑食性で、木の実や木の根のほか、昆虫や動物など何でも食べますが、どちらかと言えば植物性が強く、春にはブナなどの新芽、夏はアザミなどの草本類のほか、秋にはドングリやクリ、アケビ、ヤマブドウなど、季節によって様々なものを食べます。行動範囲については、年齢や餌の分布、ドングリなどの豊凶 (36通目ブナの項で紹介) により年ごとに変化しますが、まれに100平方キロメートルを超える広い行動範囲を持つツキノワグマもいます。

走る速度も速く、最高時速40 kmにも達する事があり木登りも上手なので、万が一ツ

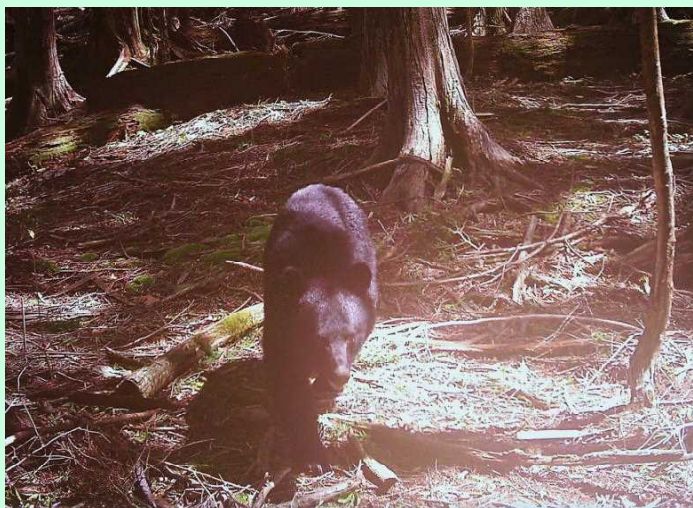


写真2 大杉谷のツキノワグマ

キノワグマに出会っても逃げたり、木に登ってやり過ごそうとするのは危険なのでやめましょう。じっと目を見て、背中を見せずに後ずさりすることが肝心です。



写真3 大杉谷のツキノワグマ

ここまでツキノワグマの生態について紹介しましたが、個体数についてはどうでしょうか？調べて見ると、個体数は徐々に減少しており、特に下北半島・東中国地域・西中国地域・四国山地、そして紀伊半島のツキノワグマが「絶滅のおそれのある地域個体群（LP）」として環境省のレッドリストに登録されています。

紀伊半島の和歌山・奈良・三重県ではツキノワグマの捕獲が禁止されており、個体数減少を防ぐ取組が行われています。

大杉谷国有林内にも少なくとも親子2組を含めた5頭の見撃談があり、重要な繁殖地のひとつであると考えられます。

(2) 樹木へのクマ剥ぎについて

山の中を歩いていると、樹木の根際付近の樹皮がはがされている木とよく出会います。大杉谷国有林ではニホンジカ（以下シカと略）の食害による森林内の植物の減少や造林したスギやヒノキの苗をかじられたり、成長した木の樹皮をはがされる被害が多かったため、最初は「またシカの仕業かな？」と思っていましたが明らかに様子が違います。調べて見るとツキノワグマによる樹木の皮剥ぎが原因のようでした。写真4ではくっきりと爪痕が残り、痛々しい様相をしています。

両者の比較ができるように、写真4と写真5でツキノワグマとシカの皮剥ぎの違いを載せてみました。写真4のツキノワグマでは皮剥ぎは春先～初夏に発生し、はがされた樹皮が大きくバナナの皮を剥いたように樹木にくっついた状態で残っていることが多いです。まためくられた木の表面に歯の後が垂直方向に何本も伸びています。

逆に写真5のシカの場合では一年中起こる可能性があり、小さな口でむしりながら樹皮をちぎるため、破片がツキノワグマの場合よりも小さく樹木から離れて下に落ちていきます。また表面はつるつるとして、歯の細かい痕が縦横に多く見られることが特徴として挙げられます。

クマ剥ぎは、樹木の皮をはぐことで枯れてしまう可能性があること、枯れなくとも一番玉（一番下の太い部分を含む丸太）の木材の価値が下がってしまうことから、国有林を含め林業に従事している方々にとって頭の痛い問題のひとつとなっています。



写真4 クマハギと爪の痕



写真5 シカによる剥皮

(3) クマ剥ぎを行う原因

それではなぜツキノワグマは樹木の皮をめくってしまうのでしょうか？

様々な研究の結果を調べると、ブナやミズナラのドングリやウワミズザクラなどの樹果等の主食となる実が少なくなった年の春先に、クマ剥ぎの被害が増加している事がわかってきました。ツキノワグマのお目当ては樹皮そのものではなく樹木の形成層に流れる糖類であり、それらを歯で削ってしみ出してきた樹液をなめているようです。また糖類は直径の大きいものや年輪の幅の大きいものに多く含まれるようで、大きくて木材として利用可能な良い木の皮を根こそぎはがされてしまう事もあります。

スギやヒノキのクマ剥ぎの問題については、周りにブナやミズナラなど主食となる実をつける広葉樹の森林が多くなれば食料問題は解消され、クマ剥ぎの被害は収束するかもしれませんが、天然林では、シカが広葉樹等の稚幼樹を食べてしまうため、後継樹となる広葉樹が生育しにくい状況にあります。ツキノワグマだけではなく、シカの食害やその他の要因を多角的に分析し、安心して繁殖や子育てができる生息環境を考えていく必要があります。



写真6 ツキノワグマによる剥皮

(4) ツキノワグマに出会わないようにするには

最後になりましたが、春先の時期は越冬後に餌を探すため行動が活発になり、ツキノワグマとの遭遇率が高くなると考えられます。

そのため大杉谷の登山道を登られる際は

- 1: 一人ではなく複数人で歩くこと。
- 2: ツキノワグマに人がいることを知らせるため、クマ鈴（写真7）やラジオなど音の出るものを必ず身につけること。
- 3: 生ゴミ（お弁当の残り等）を捨てるなど、自らツキノワグマを近づける行為はしないこと。



写真7 クマ鈴

上記の3点を守って登山をしていただくようにお願いします。

登山のための準備を行い、是非、大杉谷の雄大な自然を堪能してください。そして、そこに暮らすツキノワグマなどの動植物にもより関心を持っていただけると幸いです。

発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官